

京都教区時報

第179号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



八月六日は変容の祝日
 タボルでは主の栄光の輝きを見た
 広島で何を見たのか
 閃光は一瞬にして
 町を人を焼き尽くした
 それは阿鼻叫喚のうめき
 今もそのうめきはひびく
 広島を訪れる君達は何を見たか
 余りにも美しくなった町に
 あの苦しみを見ることが出来るか
 あの残酷さを感じ得たか
 その同じ苦しみは長崎にもある
 広島のかげにかくれて
 長崎の人の苦しみは？
 隠れた切支丹たちの痛みも？
 今も原子爆弾は破裂している
 チェルノブイリ
 スリーマイル島で
 ビキニで
 原子力発電のかけて
 その光のかけて
 私達は平和を味わっている
 少年たちよ
 君達は広島で何を感じ
 誰の胸を打ち
 何を祈ったのか

宣教司牧評議会報告(6月)

●司教挨拶と自己紹介

奥本常任委員長、藤村評議会議長紹介。藤村議長長の司会で議事が始まる。

●報告

- ①宣教評議会の規約と歩みの説明
規約については時報17号
- ・歩み 評議会記録(1985・11・19発足時より)に従って説明
- ・尚、この記録表は各評議委員、小教区に送付されている。
- ・また質問応答のなかで
記録の中でそれが諮問であり答申なのかとの質問があり、事務局で明確にする事になる。

②報告事項

- ・青年センター
内容については時報の「あんでな」を参照されたい。
- ・平和への歩み
これもその都度報告されている。
- ・アジア交流委員会
これも時報ノモスカルで。
- ・資料委員会
内容は今までその都度報告。

●議事

一、第2回ナイイスの歩みと今後京都教区としての取り組みの可能性(討議のまとめ)

①司教研修会を全体の意見を聞く公聴会的要素をもたせる事については、日程その他の理由ではない事にし、この研修会に信徒代表を招く形で行う。

②既に家庭についての話し合いを進めているグループの動きを尊重する。以上の事を踏まえた上で、次の事を司教に答申した。

- ・第2回ナイイス準備委員会を早急に設置する。
- ・委員は原則として、各ブロックから1名ずつ(計5名)、司祭団、修道女から各2名、青年から1名、司教評より2名。以上に柳本師が加わり、計13名に委嘱する。
- 二、よりよき、福音宣教共同体となるために(適正配置について)
この取り組みの今までの経過説明
今、教区でかかえている問題から三優先課題にしぼり、その第二の適正配置を1990年から正式に取扱い、この問題を五項目にま

とめ、更にこれに基づき現状調査とアンケートを行い、このアンケート結果をまとめ、1990年12月評議会に、資料と所感をまとめ司教に答申した。

尚、この報告書は、京都教区アンケート「よりよき宣教共同体になるために(適正配置)」というタイトルで、各小教区修道院、施設に送られているので、是非、目を通し、これを材料に話し合いを進めていただきたい。

司教はこの答申を受け、次の諮問をされた。その資料に基づいて

- ・内容をより分かりやすく
- ・種々の機会に利用できるもの
- ・共同司牧・適正配置など判りにくい言葉を分かりやすく説明したものを作成して欲しい。

司教評はこの諮問を受け、次のことを決定した。

- ・臨時評議会を9月26〜27日に開催する。
- ・そこでより分かりやすい資料の作成と分析を行う。

(文責 村上)

'92平和への歩み 教区実行委員会報告

第1回教区実行委員会は1992年5月10日河原町カトリック会館で開催されました。

- ①92教区テーマ
「ともに手を取りあって生きよう」
- ②92各ブロックテーマ
三重「外国人受入れ」
南部「日常生活から地球環境を考える」

③92各ブロック活動計画
三重 第3回ウォーカーソン
(4月29日)津市内、西サモア支援

奈良 8月9日 平和祈願ミサ
映画会と分かち合い(奈良教会)

滋賀 8月9日 平和祈願ミサ
各小教区ごとの学習会

11月23日第6回ウォーカーソン
南部 6月28日「家庭にひそむ農業」講演会 山崎昌子さん(ぬかみその会主催) / 8月9日「山と水の自然について」講演会 田中真澄師(岩屋寺住職)

平和行進 河原町から円山公園
9月から10月末東チモールのシマオンパレットさんと弦楽四重奏団コンサート

11月29日 講演会 雨宮師
(聖書使徒職と共催)

④教区一斉平和祈願ミサ
6月6日に編集会議パンフレット作成。8月9日の共同祈願は各ブロックより1つずつだしてもらおう。

⑤教区から予算をもらえるように準備していく。

・三重県がミサ献金で集めた¥78,315は三重で使途を決めてもらう。(西サモア支援のため)

・次回は'93年1月24日に開催予定。

(文責 柳本)

亀岡教会

を訪ねて



青年センターの運営委員会が、6月27・28日に行われました。各ブロックより集まった委員と共に、今回は亀岡教会の御ミサにあずからせていただきました。

▲御ミサ

スペイン語の聖歌での始まり。いつも歌っている聖歌とはちよつと異なり、明るく和やかな雰囲気を感じられました。そのせいか？久しぶりに心に響く歌声でした。いつもと違うから!?

▲歓迎会

この日は亀岡教会にグアドルペ会の副総長様がいられており、その歓迎会が御ミサの後に行われました。

お琴が演奏される中でお薄をいただき、さらに、書道とお花が実演されました。

あんてな

その後、お食事があり、教会の方々の手料理が並べられました。歓迎会かというとお食事会と思ってしまう

いがちですが、それだけでなく積極的に日本の文化を伝え、各人が自分のできることを一杯、心をこめてされている姿が印象に残りました。

▲それから

御ミサの参列者の中に、外国から来られた方の姿が多く見られました。それは亀岡に限らず、どこでも当たり前になってきています。

英語を母国語としている方とは、身ぶり手ぶりと片言英語で、なんとか話ができます。しかし、それ以外の言葉となると、話せる人を通しての交流になり、特定の人に負担がかからないとは限りません。"ことば"が少し壁になり、お互いが離れてしまうことも考えられます。

これからは教会も、日本語だけではすまなくなりつつあります。言葉のことだけでなく、今までのカラに閉じこもってられない状態を見る、とてもよい機会を与えられた気がします。

あんてな

青年センター事務局員募集

詳細は ☎ 075-822-6246 まで。

正義と平和協議会講演会から

イエスと浄・不浄の掟について

太田 勝

福音の小さい兄弟会



イエスは聖なるものとして「浄」のカテゴリに属していながら、「ライ者」にふれ、また死んだ少女の手を取るなど「不浄」にくみし、「浄・不浄」の掟を破る存在であったと講師の小久保先生は言う。この矛盾をどう説明するかが面白かった。

聖書の説明は、「不浄にくみしても、不浄よりもはるかに浄であり、聖なる者であったイエスは、「ライ」者にふれても、死者をよみがえらせてしまつて、不浄に汚染されない」と説明します。

イエスは新しい purity system 浄のシステムを提示され、そこでは神の慈しみ、神への愛、兄弟姉妹への愛が「浄・不浄」のシステムに取って替わるわけです。

以上で一応バンバンザイにみえますが、講話のあと出された八木

氏の質問「聖なるイエスは不浄のうち勝たれたとのことですが、その論理では「ライ」者をはじめ既成秩序から疎外されたり、既成システムに反旗をひるがえし不浄とレッテルをはられた者自身の価値はマイナス・イメージのまま残り、プラスとは見られない。それでは既成秩序の側の人に都合がいいだけではないか？」との質問の重みは残る。

また、イスラエルがエジプトの奴隷状態からヤーウエにより救出された時は、イスラエルの共同体は「自分は再び奴隷にはならないし、また兄弟を奴隷にすることも決してするまい」という基盤のうえになりつつハズであるのに、どうして「浄・不浄」の掟が奴隷の上に来てしまったのか、僕としては知りたいと思いました。

お知らせ

教区スケジュール

9月

- 3日 司祭評議会
- 6日(日)結婚相談室開設(河原町カトリック会館6階ホール)午後1時から
- 九条教会バザー
- 13日(日)敬老の集い(大津教会)
- 14日 京都カトリック信愛幼稚園創立50周年記念式典感謝ミサ
家庭研究会(河原町カトリック会館)午前10時から
- 15日 マリア会高田師の司祭叙階式
予定(河原町教会)午後1時
- 18日~20日マリッジエンカウ
ンター(奈良)
- 20日(日)カトリック・スカウトの日(京都アロック)
- 27日(日)子羊会例会(高野教会)

▼カトリック研修センターから

- ・典礼研修コース
7月31日(金)~8月3日(日)
賛美の歌―その言葉とメロディ
- ・典礼研修コース内特別行事
新しい賛美の歌フェスティバル
「新しい賛美の歌」応募作品発表

- 表会(8月2日(日)午後3時)
- ・EAP I公開講座
テーマ「神の民」
- ・公開講演会
(8月9日(日)午後2時から)

アジアにおける教会司牧
いづれも場所は日本カトリック研修センター〒466名古屋市昭和区広路町単人30 ☎052-831-5037(研究企画部)

▼第6回「福音の種子と芽生えを見つける体験文募集」

《募集要項》

- ①応募対象 小、中、高校生
- ②部門 作文、詩(いづれか)
- ③テーマ
「あの時は言えなかったけど、やっぱり言おうかな」
- ④締切り 9月22日(火)必着
- ⑤送り先 〒156世田谷区松原2-28-15 日本カトリック宣教研究所「体験文」係

▼第29回カトリック社研セミナー

- ・主題 社会の中で揺れる家庭日時 1992年8月21日(金)・22日(土)・23日(日)
- 場所 横浜雙葉学園 視聴覚教室
- ・申し込み締切り 8月10日(日)

- ・参加費5000円(一日2000円)資料代含む。
- ・申し込み先
カトリック社会問題研究所
セミナー準備委員会
〒169東京都新宿区北新宿1-33-20
TEL/FAX 03-33362-4956

▼「聖書と差別」シンポジウム

第一回(9月13日(日)午後2時から5時 河原町教会)。
パネリスト 栗林輝夫(基調講演)・本田哲郎・和田幹男・J・A・ガレロン

差別・抑圧の問題をキリスト者として、聖書の中からのように解放の心を汲み取ったらよいか。多くの方のご参加を待っています。(会費5000円)

▼小教区・信徒の意見を聞く教区の窓口について

京都教区内の信徒協議会から、京都教区宣教司牧評議会に「教区への意見はどこに持っていけば良いのか」という提案が出され、司牧評議会でも討議をした結果、「司牧評議会は司教の諮問機関なので窓口として相応しくない」という事

で、司教顧問会に付託されました。司教顧問会はその窓口になることを6月顧問会で決めました。

それで教区の皆様にごのこをお知らせし、左記の要領でお受けすることを伝えています。

- ①小教区、共同体、個人どちらからの意見でも結構です。
- ②「必ず文書」で名前を明記して「顧問会あて」または、各「顧問会あて」にお出しください。(匿名の文書には責任をもってお答えできませんのでご了承ください。)
- ③提出された意見については、文書を受け取った月の次の顧問会で討議されます。その意見を受入れるかどうかは顧問会で決めますが、意見の出された所には必ずご返事を出します。
- ④顧問会の討議が延びる場合もあります。
- ⑤司教顧問は1992年7月1日現在、下記6名(村上真理雄師・松本秀友師・瀧野正三郎師・東門陽二郎師・西野猛生師・齋木嘉作師)。



遅まきながら「ともだれと...」上・下を読んだ。8月の祈りこそ、心、そして恵みを。(J)